

▶ WEB配信によるライブセミナー開催

今更聞けない？

でも知りたい！

デジタル変革

Digital Transformation

DXってなに？

「デジタル」を活用して変化する時代に対応した
仕事の仕組みに変えていきませんか

ベテラン社員の技術やノウハウをデジタル化して社内で共有したり、生産工程の各段階でデータを収集・分析し、生産効率を高めて人手不足に対応したりと、デジタル技術を活用して仕事の仕組みを見直し、課題解決や生産性向上を実現する動きが進んでいます。

DX=「デジタル変革」の導入が、御社に何をもたらすのか？また、大企業だけでなく中小の事業者こそデジタル変革に積極的に取り組むべきであること、その必要性などについて、小浜市における「鯖 復活プロジェクト」の取組事例をはじめ、さまざまな具体的な事例を交えて考察します。

令和
2年

10月6日 火

14:50~17:00 配信

参加
無料

» 開催方法

・ユーチューブを利用したWEB配信により開催

» 参加方法等

・事前にお申し込みが必要です

お申し込み方法は裏面をご参照ください
(申込者に受講用URLを送付いたします)

» 講演1

15:00~15:40 (講演時間約40分)

デジタルが社会・産業・
経済・地方を変える

東京大学大学院
工学系研究科教授

森川 博之 様



» 講演2

15:40~16:20 (講演時間約40分)

中堅・中小企業がDXに
取り組むべき
理由と進め方

青山システム
コンサルティング株式会社
シニアマネージャー

長谷川 智紀 様



» 事例発表

16:20~17:00 (講演時間約40分)

「鯖、復活」
プロジェクトについて

福井県小浜市役所
産業部農林水産課
水産振興グループ
課長補佐

領家 光章 様





≫ 講演1

デジタルが社会・産業・経済・地方を変える

東京大学大学院
工学系研究科教授もりけん ひろゆき
森川 博之 様

〈プロフィール〉

1987年東京大学工学部卒業
1992年同博士課程修了 博士(工学)
2006年東京大学大学院教授
2002~2007年NICTモバイルネットワークグループ
リーダー兼務。
モノのインターネット/M2M/ビッグデータ、センサネットワーク、無線通信システム、情報社会デザインなどの研究に従事。
電子情報通信学会論文賞(3回)、情報処理学会論文賞、情報通信学会論文賞、ドコモモバイルサイエンス賞、総務大臣表彰、志田林三郎賞、情報通信功績賞など受賞。
OECDデジタル経済政策委員会(CDEP)副議長、新世代IoT/M2Mコンソーシアム会長、総務省情報通信審議会部会長、国土交通省国立研究開発法人審議会委員等。
著書に「データ・ドリブン・エコノミー(ダイヤモンド社)」、「5G 次世代移動通信規格の可能性(岩波新書)」など。

〈概要〉

産業構造や事業構造までもを革新する起爆剤がデジタルである。いかなる産業領域の企業であっても、デジタルを新たな価値を創出する経営戦略として考えなければいけない。COVID-19で世界観や社会観が変わりつつあることも切り離せない。世界観や社会観の変化がイノベーションにつながるためである。

今年サービスが開始された5Gへの向き合い方をも示しながら、事業領域や組織の再定義の必要性、先遣隊としての取り組みの必要性、カタリストの重要性、土俵に上がる意識の大切さなどを述べ、デジタルを駆動力としたイノベーションについてお話しする。



≫ 講演2

中堅・中小企業がDXに
取り組むべき理由と進め方青山システム
コンサルティング
株式会社
シニアマネジャーはせがわ ともり
長谷川 智紀 様

〈プロフィール〉

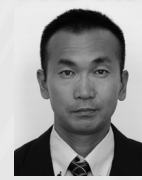
外資系コンサルティング会社および
大手アパレル企業の情報システム部門を経て
青山システムコンサルティング株式会社に入社。
業務改善を軸にしたコンサルティングや
セミナーなどの講演活動を行う。
共著に『勝ち残る中堅・中小企業になるDXの教科書』
(日本実業出版社)。

〈概要〉

経済産業省が2018年に発表した「DX(デジタルトランスフォーメーション)レポート」は、「2025年の崖」を喚起し、DXへの取り組みを促している。また、現在は書店にDX関連書籍が数多く並び、IT関連記事ではDXという文字を見ない日は無い。

しかしながら、これらの多くは大企業を意識して書かれており、中堅・中小企業の日線で見られているものは、余りに少ないのが現状である。

では、中堅・中小企業はDXに取り組まなくても良いのか。そんなことは無く、むしろ積極的に取り組むべきである。本講演では、中堅・中小企業がDXに取り組むべき理由と取り組み方について、事例を交えながら解説をしていく。



≫ 事例発表

「鯖、復活」
プロジェクトについて福井県小浜市役所
産業部農林水産課
水産振興グループ
課長補佐りょうけ みつあき
領家 光章 様

〈プロフィール〉

平成 8年4月~ 民生部社会福祉課
平成13年4月~ 企画部財政課
平成17年4月~ 産業部観光交流課
平成24年4月~ 教育委員会教育総務課
平成29年4月~ 産業部農林水産課
(農地集積・担い手育成グループ)
平成31年4月~ 産業部農林水産課
(水産振興グループ)

〈概要〉

若狭湾に面した小浜は、かつては鯖の一大産地で、量だけでなくその質についても高く評価されており、現在でも鯖の加工品は数多くある。ところが、近年は海洋環境の変化や漁業者の減少などにより、鯖の水揚げは激減していた。

そんな中、2015年4月に「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産第1号に認定された。これを契機に、小浜の鯖を復活させようという気運が高まり、2016年6月から、地元の漁業者や漁協、福井県立大学、福井県、小浜市などが協力体制を構築し、産学官連携による「鯖、復活」プロジェクトがスタートした。

同プロジェクトは、観光客等をターゲットに刺身でも食べられる鯖を養殖し、安定供給する体制を確立することが取り組みの大きな目標であるが、同時に「つくり、育てる漁業」の効率化を実現させることで、養殖漁業全体を持続可能な産業へと発展させていくことも目指す取り組みである。

当日の流れ

主催挨拶

講演1

講演2

事例発表

マリンオープンイノベーション機構について

名称	一般財団法人 マリンオープンイノベーション機構
所在地	静岡市葵区追手町9番18号 静岡中央ビル8階 ※本年秋に清水マリンビル内(静岡市清水区日の出町9-25)へ移転予定
役員等	理事長：松永是(海洋研究開発機構(JAMSTEC)理事長) 研究所長：五條堀孝(アブドラ国王科学技術大学ディステングイッシュトプロフェッサー(特別荣誉教授)) 理事/統括プロデューサー：橋本正洋(国立大学法人 東京工業大学 環境・社会理工学院 イノベーション科学系 教授)
活動概要	海について学び、新たな恵みを見出して、多様な産業分野での新たな価値の創出や課題の解決に貢献するための活動に取り組んでまいります。 ○研究開発拠点「MaOI-PARC」(本年秋開所予定)におけるライブラリーやデータベースの整備、共同研究の支援 ○産学官金の情報共有と交流を促進する会員制プラットフォーム『MaOIフォーラム』の運営 等

お申し込み・お問い合わせ先

当機構のホームページ(下記二次元コード)からお申し込みください。なお、郵送・FAXでお申し込みの場合は、以下の受講申込書に必要事項をご記入の上お送りください。E-mailの場合は、受講申込書の項目を記載してお送りください。



〒420-0853 静岡市葵区追手町9番18号 静岡中央ビル8階 一般財団法人マリンオープンイノベーション機構 総務部 宛
ホームページ：https://maoi-i.jp Fax：054-204-1121 E-mail：seminar2@maoi-i.jp
【お問い合わせ先】恐縮ですが、上記E-mailにお問い合わせください

第2回 MaOIセミナー 受講申込書

会社名・団体名	役職	フリガナ 氏名
所在地	役職	フリガナ 氏名
電話番号		
メールアドレス	役職	フリガナ 氏名